

## 1. 日本側参加研究者の体制

|   |                |                            |                   |                     |    |
|---|----------------|----------------------------|-------------------|---------------------|----|
| ①採択年度（和暦）                                     | 平成30年度         | ②採択期間<br>（通常A型は5年間、B型は3年間） | 3年間<br>（1年未満は切上げ） | ③事業の型<br>（AまたはBを記入） | B型 |
| ④日本側拠点機関名（和文）                                 | 東京海洋大学         |                            |                   |                     |    |
| ⑤コーディネーター部局名・職名・氏名（和文）                        | 学術研究院 教授 佐野 元彦 |                            |                   |                     |    |
| ⑥日本側協力機関名（和文）（適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） |                |                            |                   |                     |    |
| 東京大学  |                |                            |                   |                     |    |
| 広島大学  |                |                            |                   |                     |    |

| ⑦参加研究者数内訳<br>（重複カウントしないこと） | 教授級<br>以上 | 助教・<br>准教授等 | ポスドク等<br>若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の<br>参加資格のない者 | 合計 | 第三国所属の研究者<br>（内数） |
|----------------------------|-----------|-------------|----------------|------|----------------------|----|-------------------|
| 拠点機関                       | 6         | 4           |                | 9    |                      | 19 |                   |
| 協力機関・協力研究者                 |           | 2           |                | 2    |                      | 4  |                   |
| 合計                         | 6         | 6           | 0              | 11   | 0                    | 23 | 0                 |

| ⑧手引2-4記載の参加資格のない者の内訳（適宜、行を加除。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） |      |          |
|---|------|----------|
| 所属・職  | 専門分野 | 研究交流での役割 |
| 該当なし  |      |          |

| ⑨「第三国所属の研究者」内訳（平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。） |      |               |                          |
|--|------|---------------|--------------------------|
| 所属機関所在国・所属・職   | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 日本側参加者として一体的な協力体制を確保する方法 |
| 該当なし   |      |               |                          |

2. 経費

| 事業の型 B 型               |                             |                                 |  |
|------------------------|-----------------------------|---------------------------------|--|
| ①当該年度の本事業による経費の支出      |                             |                                 |  |
| 経費内訳                   | 金額 (単位:円)                   | 備考                              |  |
| 研究<br>交<br>流<br>経<br>費 | 国内旅費※1                      | 605,398                         |  |
|                        | 外国旅費※1                      | 3,431,214                       |  |
|                        | 謝金                          | 0                               |  |
|                        | 備品・消耗品購入費                   | 1,588,329                       |  |
|                        | その他経費                       | 24,244                          |  |
|                        | 不課税取引・非課税取引<br>に係る消費税<br>※2 | 350,815                         |  |
|                        | 計                           | 6,000,000                       |  |
| 業務委託手数料                | 600,000                     | 研究交流経費の10% (1円未満切捨)。消費税額は内額とする。 |  |
| 合計                     | 6,600,000                   |                                 |  |

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2 受託機関における課税、非課税(免税)の区分に応じた対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費(総額)の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

| 該当なし  |   |            |                                   |
|---|---|------------|-----------------------------------|
| ③<br>本<br>事<br>業<br>の<br>旅<br>費                               | 日本側参加研究者のうち、<br>所属機関が日本である者の旅費の総額 (単位:千円)   | 2,801      |                                   |
|   | 日本側参加研究者のうち、<br>所属機関が日本以外である者の旅費の総額 (単位:千円) | 日本→日本以外の渡航 | 該当なし                              |
|   |   | 日本以外→日本の渡航 | 該当なし                              |
| ④<br>(単<br>位:<br>千<br>円)<br>(千<br>円<br>未<br>満<br>切<br>捨<br>て) | 日本または相手国<br>→日本の渡航                          | 658        | (左記のうち、<br>第三国所属の<br>相手国側<br>の総額) |
|   | 日本又は相手国<br>→相手国の渡航                          | 577        | 日本または相手国<br>→日本の渡航                |
|   | 日本または相手国<br>→第三国の渡航                         | 該当なし       | 日本又は相手国<br>→相手国の渡航                |
|   | 第三国→<br>日本の渡航                               | 該当なし       | 日本または相手国<br>→第三国の渡航               |
|   | 第三国→<br>相手国の渡航                              | 該当なし       | 第三国→<br>日本の渡航                     |
|   | 第三国→<br>第三国の渡航                              | 該当なし       | 第三国→<br>相手国の渡航                    |
|   |   |            | 第三国→<br>第三国の渡航                    |

※旅費は、往復の金額で記載すること(例:第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載)。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤(B型のみ)中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合(交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

| 総額 (単位:千円) | 手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明 |
|------------|----------------------|
| 該当なし       |                      |

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)(単位:千円、千円未満切捨て)

| 全相手国のマッチングファンド総額 | 相手国拠点機関数 | 相手国拠点機関のマッチングファンド平均 |
|------------------|----------|---------------------|
| 該当なし             |          |                     |

3. 共同研究・セミナー

| 事業の型   |                                 | B 型                 |                     |                     |                     |                        |                        |  |  |
|--|---------------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|------------------------|------------------------|--|--|
| ①共同研究（適宜、行を加除すること。）  |                                 |                     |                     | 現在の年度に○を付けること→      |                     |                        |                        |  |  |
| 共同研究<br>整理番号   | 共同研究課題名（和文）                     | 日本側代表者氏名・所属・職名      | 1年目                 | 2年目                 | 3年目                 | A型のみ                   |                        |  |  |
|  |                                 |                     | 実施年度に<br>○を付ける<br>↓ | 実施年度に<br>○を付ける<br>↓ | 実施年度に<br>○を付ける<br>↓ | 4年目<br>実施年度に○を<br>付ける↓ | 5年目<br>実施年度に○を<br>付ける↓ |  |  |
| R1   | 東南アジア魚介類種苗生産技術開発センターネットワーク拠点の形成 | 佐野元彦・東京海洋大学学術研究院・教授 | ○                   | ○                   | ○                   |                        |                        |  |  |
| 共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引6-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）   |                                 |                     |                     |                     |                     |                        |                        |  |  |
| 2018年度研究報告・2019年度計画検討および現地養殖場視察を各国チームが参集しフィリピン・イロイロにあるSEAFDEC/AQDで6月16-19日に開催した。ベトナム若手研究者1名を広島大学に5月28日～6月7日まで、また、タイの若手研究者1名を東京海洋大学に7月21日～31日まで招聘し、それぞれガザミおよびウチワエビの種苗生産に関して技術研修を行った。また、本プロジェクトで構築されつつある研究拠点ネットワークを利用し、さらなる東南アジアにおける共同研究の発展のため、ASEANの資金であるJapan-ASEAN Integration Fund (JAIF) への応募を全参画メンバーから賛同を得たため、在インドネシア大使館にある日本のASEAN代表部を訪問し、申請に向けた情報収集を行うとともに、フィリピンのSEAFDEC/AQDを実施主体として応募することとし、来年度具体的な申請手続きを進めることとした。共同研究においては、フィリピンチームでは、ハタ類種苗生産における細菌性疾病に対する拮抗細菌やファージによる生物学的な制御法の検討を行うとともに、日本から大学院生2名を含め計4名が現地を訪問し、研究打合せ・意見交換を行った。マレーシアチームでは、ノコギリガザミ種苗生産における初期餌料の栄養強化法の検討及び細菌性疾病と卵菌性疾病に対する生物学的な制御法の検討を行うとともに、マレーシアから研究者1名を東京海洋大学に12月1日～4日まで招聘し、また日本から大学院生2名を含め計3名が現地を訪問し、研究打合せ・意見交換を行った。また、共同で論文執筆を行った。タイチームでは、ガザミ種苗生産における細菌性疾病に対する生物学的な制御法の検討を行った。インドネシアチームでは、ハイガイ種苗生産における親貝の成熟・幼生の発生・初期餌料などを含む種苗生産技術の検討を行うとともに、日本から3名が現地を訪問し、現地調査、共同実験、研究打合せ・意見交換を行った。ベトナムチームでは、ウチワエビ種苗生産における餌料の検討及び細菌性疾病の生物学的な制御法の検討を行うとともに、研究者1名を広島大学に5月28日～31日まで招聘し、打合せや種苗生産施設の視察を行った。日本からの現地訪問では大学院生を参加させ、現地においても訪問先の大学院生等との交流も積極的に行った。さらに、インドネシア、タイ、フィリピンから研究打合せ・視察のための日本への招聘を計画していたが、コロナウイルス感染症の発生に伴い中止した。 |                                 |                     |                     |                     |                     |                        |                        |  |  |

| ②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）   |                                |   |                         |                          |
|--|--------------------------------|---|-------------------------|--------------------------|
| セミナー   | セミナー名（和文）                      | セミナー名（英文）   | 開催地（国名・都市名・会場名）         | 開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日曜）） |
| S1   | 日本学術振興会研究拠点形成事業 養殖に関する最新のトピックス | JSPS Core-to-Core Program Current Topics in Aquaculture | フィリピン・イロイロ市、SEAFDEC/AQD | 2019年6月17日               |
| セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引6-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。）  |                                |   |                         |                          |
| 6月17日に公開セミナーとしてSEAFDEC/AQDにおいて各国のコーディネーター・主要メンバー計12人（フィリピン：AQD・フィリピン大学ピサヤス校（研究者・准教授各1名）、マレーシア：マレーシア大学サバ校（講師1名）、タイ：水産局（研究者1名）、インドネシア：ディボネゴロ大学（講師1名）、ベトナム：ニャチャン大学（准教授1名）、日本：東京海洋大学・東京大学・広島大学（教授3名・准教授3名））が参加するとともに、東京海洋大学大学院博士後期課程1年1名、AQDおよびフィリピン大学ピサヤス校から研究員・若手研究員、大学院生等も加わり、計40名の参加があった。本プロジェクトでの対象生物の養殖・種苗生産を中心に、現状、最新技術や課題を含め各国から計10演題の報告があり、東南アジア地域における各国の今後の水産養殖の発展と問題について議論した。養殖用の種苗生産技術の研究開発段階は、ある生物では進んでいる国があれば、かなり遅れている国もあり、違う生物で見ればまた違う発展段階であるなど、各国で異なる事情・状況を認識して相互理解を深めるとともに、東南アジアの種苗生産技術のネットワークをどのように維持していくのが効率的なのか、このネットワークを活用した次期の共同研究のあり方などについても議論した。日本から参加した大学院生は1名であったが、最新の東南アジアの養殖技術情報の取得に加え、多くの研究者およびピサヤス校の学生と話すことができ、大変良い経験となった。 |                                |   |                         |                          |
| ③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7（7）参照のこと。）   |                                |   |                         |                          |
| 該当なし   |                                |   |                         |                          |
| ④当該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引4-4（1）①参照のこと。）   |                                |   |                         |                          |
| 該当なし   |                                |   |                         |                          |

4. 研究交流状況

| 事業の型 B 型  |       |             |                |      |                              |    |   |
|---|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|---|
| ①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)   |       |             |                |      |                              |    |   |
| 国名(派遣先)<br>第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。  | 教授級以上 | 助教・<br>准教授等 | ポスドク等<br>若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の<br>参加資格のない者・<br>その他 | 合計 | うち、31日以上<br>の渡航数(該当の場合のみ)<br>役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。<br>記入例: 4(教授級以上1、大学院生3) |
| 1 フィリピン   | 4     | 4           |                | 3    |                              | 11 |   |
| 2 マレーシア   | 1     |             |                | 2    |                              | 3  |   |
| 3 インドネシア  | 2     | 1           |                |      |                              | 3  |   |
| 計   | 7     | 5           | 0              | 5    | 0                            | 17 |   |
| 第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明<br>(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |       |             |                |      |                              |    |   |
| 該当なし  |       |             |                |      |                              |    |   |

| ②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)  |       |             |                |      |                              |    |   |
|--|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|---|
| 国名(派遣元)<br>第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。   | 教授級以上 | 助教・<br>准教授等 | ポスドク等<br>若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の<br>参加資格のない者・<br>その他 | 合計 | うち、31日以上<br>の渡航数(該当の場合のみ)<br>役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。<br>記入例: 4(教授級以上1、大学院生3) |
| 1 マレーシア  |       | 1           |                |      |                              | 1  |   |
| 2 タイ   |       |             | 1              |      |                              | 1  |   |
| 3 ベトナム   |       | 1           | 1              |      |                              | 2  |   |
| 計  | 0     | 2           | 2              | 0    | 0                            | 4  |   |
| 第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明<br>(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |       |             |                |      |                              |    |   |
| 該当なし   |       |             |                |      |                              |    |   |

| ③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)                                       |         |       |             |                |      |                              |    |   |
|---|---------|-------|-------------|----------------|------|------------------------------|----|---|
| 国名(派遣元)   | 国名(派遣先) | 教授級以上 | 助教・<br>准教授等 | ポスドク等<br>若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の<br>参加資格のない<br>者・その他 | 合計 | うち、31日以上<br>の渡航数(該当の場合のみ)<br>役職ごとの内訳も( )書きで併記のこと。<br>記入例: 4(教授級以上1、大学院生3) |
| 1 マレーシア   | フィリピン   |       | 1           |                |      |                              | 1  |   |
| 2 タイ  | フィリピン   | 1     |             |                |      |                              | 1  |   |
| 3 インドネシア  | フィリピン   |       | 1           |                |      |                              | 1  |   |
| 4 ベトナム  | フィリピン   |       | 1           |                |      |                              | 1  |   |
| 計   |         | 1     | 3           | 0              | 0    | 0                            | 4  |   |
| 各渡航について、手引4-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明(適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |         |       |             |                |      |                              |    |   |
| 「(S1) 日本学術振興会研究拠点形成事業 養殖に関する最新のトピックス」に出席するため。   |         |       |             |                |      |                              |    |   |

| ④海外→日本の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |       |             |                |      |                          |    |  |
|---|-------|-------------|----------------|------|--------------------------|----|--|
| 国名(派遣元)   | 教授級以上 | 助教・<br>准教授等 | ポスドク等<br>若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の参加資格のない者・<br>その他 | 合計 |  |
| 1 該当なし  |       |             |                |      |                          | 0  |  |
| 計   | 0     | 0           | 0              | 0    | 0                        | 0  |  |

| ⑤日本→海外の渡航数(相手国経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |       |             |                |      |                          |    |  |
|---|-------|-------------|----------------|------|--------------------------|----|--|
| 国名(派遣先)   | 教授級以上 | 助教・<br>准教授等 | ポスドク等<br>若手研究者 | 大学院生 | 手引2-4記載の参加資格のない者・<br>その他 | 合計 |  |
| 1 該当なし  |       |             |                |      |                          | 0  |  |
| 計   | 0     | 0           | 0              | 0    | 0                        | 0  |  |

5. 交流相手国

|   |  |
|---|--|
| 事業の型 B 型  |  |
| ①相手国名 (和文)  | フィリピン  |
| ②拠点機関名 (和文および英文)  |  |
| 和文：東南アジア漁業開発センター<br>英文：Southeast Asia Fisheries Development Center, |  |
| ③コーディネーター所属部署・職名・氏名 (英文)  | Aquaculture Department, Scientist, Evelyn Grace de Jesus AYSON<br>退職に伴い3月からAquaculture Department, Head of research & Development Division, Leobert de la PENA |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)                    |  |
| フィリピン大学ビサヤス校 (University of the Philippines Visayas)                |  |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|----------------|
| 拠点機関                   | 2     | 1       | 2          |      |     | 5  |                |
| 協力機関・協力研究者             |       | 1       |            | 1    |     | 2  |                |
| 合計                     | 2     | 2       | 2          | 1    | 0   | 7  |                |

|  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) |                                      |
| 所属・職名 (専門分野)                                 | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし   |                                      |

|  |      |               |             |
|--|------|---------------|-------------|
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) |      |               |             |
| 所属機関所在国・所属・職   | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし   |      |               |             |

|  |   |             |                |                      |        |                       |            |
|--|---|-------------|----------------|----------------------|--------|-----------------------|------------|
| ⑧相手国側の経費負担<br>負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと)<br>負担なし：×<br>当該年度実施なし：－ | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) |             |                | ※参考：<br>日本側研究交流経費    |        |                       | ¥6,000,000 |
|  | 支援機関等名  | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位：千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート (外貨1単位に相当する円貨額) |            |
| A型のみ:パターン種別<br>パターン1か2を記入すること  |   |             |                |                      |        |                       |            |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費  |   | 該当なし        |                |                      |        |                       |            |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃  |   | 該当なし        |                |                      |        |                       |            |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費   |   | 該当なし        |                |                      |        |                       |            |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費  |   | 該当なし        |                |                      |        |                       |            |
| (5)相手国側研究者の研究経費  |   | 該当なし        |                |                      |        |                       |            |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費  |   | 該当なし        |                |                      |        |                       |            |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)                            |   | 合計          | 0              |                      |        |                       |            |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※新しいコーディネーターが行う役割

実施計画の策定、資金の管理、交流の実施、また、実施報告のための連絡調整など交流計画に沿って遂行する役割を担う。なお、当該コーディネーターは、当初からメンバーとして参加しており、事業の遂行に影響は生じない。

5. 交流相手国

|  |   |
|--|---|
| 事業の型 B 型   |   |
| ①相手国名 (和文)                                       | マレーシア   |
| ②拠点機関名 (和文および英文)                                 |   |
| 和文: マレーシア大学 サバ校<br>英文: Universiti Malaysia Sabah |   |
| ③コーディネーター所属局・職名・氏名 (英文)                          | Borneo Marine Research Institute, Lecturer, Mohammad Tamrin Bin MOHAMAD LAL |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |   |
| 該当なし   |   |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|----------------|
| 拠点機関                   |       | 2       |            | 1    |     | 3  |                |
| 協力機関・協力研究者             |       |         |            |      |     | 0  |                |
| 合計                     | 0     | 2       | 0          | 1    | 0   | 3  |                |

|  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) |                                      |
| 所属・職名 (専門分野)                                 | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし   |                                      |

| ⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) |      |               |             |
|--|------|---------------|-------------|
| 所属機関所在国・所属・職   | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし   |      |               |             |

| ⑧相手国側の経費負担<br>負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと)<br>負担なし: ×<br>当該年度実施なし: - | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) |             |                 | ※参考:<br>日本側研究交流経費    |        |                       | ¥6,000,000 |
|---|---|-------------|-----------------|----------------------|--------|-----------------------|------------|
|   | 支援機関等名  | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額 (単位: 千円) | 換算レート日 (例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート (外貨1単位に相当する円貨額) |            |
| A型のみ:パターン種別<br>パターン1か2を記入すること   |   |             |                 |                      |        |                       |            |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費   |   | 該当なし        |                 |                      |        |                       |            |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃   |   | 該当なし        |                 |                      |        |                       |            |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費  |   | 該当なし        |                 |                      |        |                       |            |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費   |   | 該当なし        |                 |                      |        |                       |            |
| (5)相手国側研究者の研究経費   |   | 該当なし        |                 |                      |        |                       |            |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費   |   | 該当なし        |                 |                      |        |                       |            |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)                               |   | 合計          | 0               |                      |        |                       |            |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

| 事業の型 B 型  |   |
|---|---|
| ①相手国名(和文)                                       | タイ  |
| ②拠点機関名(和文および英文)                                 |   |
| 和文:水産局<br>英文: Department of Fisheries           |   |
| ③コーディネーター所属部局・職名・氏名(英文)                         | Petchaburi Coastal Aquaculture Research and Development Center, Director, Montakan TAMTIN |
| ④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。) |   |
| 該当なし  |   |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者(内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|---------------|
| 拠点機関                   | 2     | 3       | 2          |      |     | 7  |               |
| 協力機関・協力研究者             |       |         |            |      |     | 0  |               |
| 合計                     | 2     | 3       | 2          | 0    | 0   | 7  |               |

| ⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) |                                     |
|---|-------------------------------------|
| 所属・職名(専門分野)                                 | 研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし  |                                     |

| ⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) |      |               |             |
|---|------|---------------|-------------|
| 所属機関所在国・所属・職  | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし  |      |               |             |

| ⑧相手国側の経費負担<br>負担した:○(ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと)<br>負担なし:×<br>当該年度実施なし:ー | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) |             |               |                     |        |                      | ※参考:<br>日本側研究交流経費 |  |
|---|--|-------------|---------------|---------------------|--------|----------------------|-------------------|--|
|   | 支援機関等名   | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額(単位:千円) | 換算レート日(例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート(外貨1単位に相当する円貨額) | ¥6,000,000        |  |
| A型のみ:パターン種別<br>パターン1か2を記入すること                                       |  |             |               |                     |        |                      |                   |  |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費   |  | 該当なし        |               |                     |        |                      |                   |  |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃   |  | 該当なし        |               |                     |        |                      |                   |  |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費  |  | 該当なし        |               |                     |        |                      |                   |  |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費   |  | 該当なし        |               |                     |        |                      |                   |  |
| (5)相手国側研究者の研究経費   |  | 該当なし        |               |                     |        |                      |                   |  |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費   |  | 該当なし        |               |                     |        |                      |                   |  |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)                            |  | 合計          | 0             |                     |        |                      |                   |  |

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

|  |   |
|--|---|
| 事業の型 B 型   |   |
| ①相手国名 (和文)   | インドネシア  |
| ②拠点機関名 (和文および英文)                                       |   |
| 和文：ディボネゴロ大学<br>英文：Diponegoro University                |   |
| ③コーディネーター所属<br>属部局・職名・氏名<br>(英文)                       | Faculty of Fisheries and Marine Sciences, Lecturer, DESRINA |
| ④協力機関名 (和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)       |   |
| 国立ゴンドール研究所 (Gondol Research Institute for Mariculture) |   |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者 (内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|----------------|
| 拠点機関                   |       | 3       |            | 2    |     | 5  |                |
| 協力機関・協力研究者             |       | 2       |            |      |     | 2  |                |
| 合計                     | 0     | 5       | 0          | 2    | 0   | 7  |                |

⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)

|              |                                      |
|--------------|--------------------------------------|
| 所属・職名 (専門分野) | 研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし         |                                      |

⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)

|              |      |               |             |
|--------------|------|---------------|-------------|
| 所属機関所在国・所属・職 | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし         |      |               |             |

|  |   |             |                   |                         |        |                       |            |
|--|---|-------------|-------------------|-------------------------|--------|-----------------------|------------|
| ⑧相手国側の経費負担<br>負担した：○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと)<br>負担なし：×<br>当該年度実施なし：- | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) |             |                   | ※参考：<br>日本側研究交流経費       |        |                       | ¥6,000,000 |
|  | 支援機関等名  | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額<br>(単位：千円) | 換算レート日<br>(例:2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート (外貨1単位に相当する円貨額) |            |
| A型のみ:パターン種別<br>パターン1か2を記入すること  |   |             |                   |                         |        |                       |            |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費  |   | 該当なし        |                   |                         |        |                       |            |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃  |   | 該当なし        |                   |                         |        |                       |            |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費   |   | 該当なし        |                   |                         |        |                       |            |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費  |   | 該当なし        |                   |                         |        |                       |            |
| (5)相手国側研究者の研究経費  |   | 該当なし        |                   |                         |        |                       |            |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費  |   | 該当なし        |                   |                         |        |                       |            |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費 (日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)                            |   | 合計          | 0                 |                         |        |                       |            |

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

5. 交流相手国

|  |                                   |
|--|-----------------------------------|
| 事業の型 B 型   |                                   |
| ①相手国名(和文)  | ベトナム                              |
| ②拠点機関名(和文および英文)  |                                   |
| 和文: 国立第3養殖研究所<br>英文: Research Institute for Aquaculture No.3 |                                   |
| ③コーディネーター所属<br>局・職名・氏名<br>(英文)                               | Director General, Nguyen Huu NINH |
| ④協力機関名(和文および英文) (行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)              |                                   |
| ニャチャン大学 (Nha Trang University)                               |                                   |

| ⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと) | 教授級以上 | 助教・准教授等 | ポスドク等若手研究者 | 大学院生 | その他 | 合計 | 第三国所属の研究者(内数) |
|------------------------|-------|---------|------------|------|-----|----|---------------|
| 拠点機関                   | 2     | 4       |            |      |     | 6  |               |
| 協力機関・協力研究者             |       | 1       |            | 1    |     | 2  |               |
| 合計                     | 2     | 5       | 0          | 1    | 0   | 8  |               |

|   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| ⑥「その他」内訳(該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。) |                                     |
| 所属・職名(専門分野)                                 | 研究交流での役割(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。) |
| 該当なし  |                                     |

|   |      |               |             |
|---|------|---------------|-------------|
| ⑦「第三国所属の研究者」内訳(B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ。平成31年度以降の採択課題は5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。) |      |               |             |
| 所属機関所在国・所属・職  | 専門分野 | 日本側拠点機関へのメリット | 研究交流に不可欠な理由 |
| 該当なし  |      |               |             |

|   |  |             |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
|---|--|-------------|--------------------|--------------------------|--------|----------------------|-------------------|--|------------|
| ⑧相手国側の経費負担<br>負担した: ○ (ただし、最も金額の多い項目は◎と記入のこと)<br>負担なし: ×<br>当該年度実施なし: - | ⑨相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費)(適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。) |             |                    |                          |        |                      | ※参考:<br>日本側研究交流経費 |  | ¥6,000,000 |
|   | 支援機関等名   | ファンド・プログラム名 | 日本円換算額<br>(単位: 千円) | 換算レート日<br>(例: 2020/9/12) | 相手国通貨名 | 換算レート(外貨1単位に相当する円貨額) |                   |  |            |
| A型のみ: パターン種別<br>パターン1か2を記入すること  |  |             |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (1)日本側研究者の相手国内滞在費   | ×  | 該当なし        |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (2)相手国側研究者の国際航空運賃   | ×  | 該当なし        |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (3)相手国側研究者の日本国内滞在費  | ×  | 該当なし        |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (4)相手国側研究者の相手国内旅費   | ×  | 該当なし        |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (5)相手国側研究者の研究経費   | ×  | 該当なし        |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (6)相手国開催のセミナー開催経費   | ×  | 該当なし        |                    |                          |        |                      |                   |  |            |
| (7)第三国開催のセミナー開催経費(日本側拠点機関と分担の場合は△と記入のこと)                                |  |             | 合計                 | 0                        |        |                      |                   |  |            |

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。